

平成31（令和1）年度 全国学力・学習状況調査 上富良野町の結果について

令和1年10月1日
上富良野町教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年 町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- ・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の期日 平成31年4月18日（木）

5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

	上 富 良 野		北 海 道		全 国	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	3	87	997	38,837	19,263	1,028,203
中学校	1	82	584	37,859	9,515	938,888

II 調査の結果（※ 今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。）

1 児童生徒の学力の状況

(1) 小学校

教 科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国 語	63.0	63.8	全国平均正答率を下回る
算 数	64.0	66.6	全国平均正答率を下回る

(2) 中学校

教 科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国語	72.0	72.8	全国平均正答率をやや下回る
数学	58.0	59.8	全国平均正答率をやや下回る
英語	54.0	56.0	全国平均正答率とほぼ同様

※上記の基準 「上回る」 +3以上 「やや上回る」 +1～+3
「ほぼ同様」 ±1
「下回る」 -3以下 「やや下回る」 -1～-3

小学校は、国語・算数とも全国平均正答率を下回っている。「国語への関心・意欲・態度」及び「考えを文章にして記述すること」に課題がみられる。

中学校は、国語・数学が全国平均正答率をやや下回り、英語がほぼ同様となっている。「言語についての知識・理解・技能」「資料の活用」については成果がみられるが、「根拠や理由を明らかにして説明」に課題がみられる。英語は、「聞く」「読む」の正答率が高く、「伝える」「会話」に課題がみられる。

2 児童生徒質問紙の傾向

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

※ は全国平均より(+5)以上、 は全国平均より(-5)以下を表しています。

(1) 家庭での生活・学習について

○基本的な生活習慣

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
朝食を毎日食べている	98.8	95.3	93.9	93.1
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	82.7	81.4	84.1	78.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている	85.1	91.6	91.5	92.8
家で、計画を立てて勉強している	85.1	71.5	61.0	50.4

○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	2.3	8.0	54.0	27.6	6.9	1.1
全 国	12.4	16.9	36.8	24.1	7.6	2.3
中学校	0.0	22.0	39.0	23.2	11.0	4.9
全 国	9.9	25.9	34.3	17.2	8.4	4.4

○平日、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか？(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分以下	全くしない
小学校	2.3	6.9	19.5	32.2	17.2	21.8
全 国	7.0	11.3	21.5	25.9	15.6	21.4
中学校	7.3	11.0	12.2	28.0	9.8	31.7
全 国	4.8	7.6	14.6	23.4	14.8	34.8

小・中学生とも家庭における基本的な生活習慣が身につけている。小学生は、自分で計画を立てて家庭学習している。1時間以上家庭学習を行う小学生は全国とほぼ同様の割合だが、中学生は10%程度少なくなっている。

読書については、「30分以下・全くしない」小学生は全国とほぼ同様の割合だが、中学生は8%程度少なく、全国と比較し読書する生徒は多くなっている。

(2) 学校での生活・学習について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
自分には、よいところがある	81.6	81.2	69.5	74.1
先生は、よいところを認めてくれている	87.4	86.1	84.0	81.5
将来の夢や目標を持っている	88.5	83.8	76.9	70.5
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	93.1	95.2	97.6	93.9
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	77.0	79.0	76.8	70.3
学校に行くのは楽しい	88.5	85.8	85.3	81.9
学校のきまり（規則）を守っている	91.9	92.3	98.8	96.2
いじめは、どんな理由があってもいけない	98.9	97.1	97.6	95.1
人の役に立つ人間になりたい	96.9	95.2	96.4	94.3
国語の勉強は好き	64.3	64.2	52.4	61.7
国語の授業の内容はよく分かる	87.3	84.9	67.0	77.6
算数・数学の勉強は好き	70.1	68.6	63.4	57.9
算数・数学の授業の内容はよく分かる	82.8	83.5	71.9	73.9
英語の勉強は好き			58.5	56.0
英語の授業の内容はよく分かる			69.5	66.0
授業で、課題に対し自ら考え・取り組んだ	75.8	77.7	84.1	74.8
授業で、自分の考えが伝わるよう工夫して発表した	50.5	62.5	53.7	55.8
授業で、話し合う活動を通し、自分の考えを深め広げることができている	66.7	74.1	86.5	76.6
学校の部活動への参加			90.2	87.6
学校の部活動時間（2時間以上）			79.3	53.0

「自己肯定感・有用感」「将来に対する希望」「規範意識」は、小・中学生とも大変高くなっているが、中学生の「自尊感情」は低く全国平均も下回っている。「失敗を恐れず挑戦する」も小・中学生とも70%台と高くない。

「学校に行くのは楽しい」「学校のきまり（規則）を守る」は、小・中学生とも大変高くなっている。「いじめは、どんな理由があってもいけない」は小学生で98.9%、中学生で97.6%と高いが100%にはなっていない。

国語は「好き」「分かる」とも小学生は全国平均を上回り、中学生は全国平均を下回っている。算数・数学は「好き」が小・中学校で上回り、「分かる」が小・中学校とも下回っている。

中学生において、英語が「好き」「分かる」とも全国平均を上回っている。部活動については、参加率が全国平均を上回っている。2時間以上の活動時間の割合が大きく上回っている(26.3%)。「1～2時間以内」が上富良野町12.2%、全国平均31%と20%程度の開きがある。

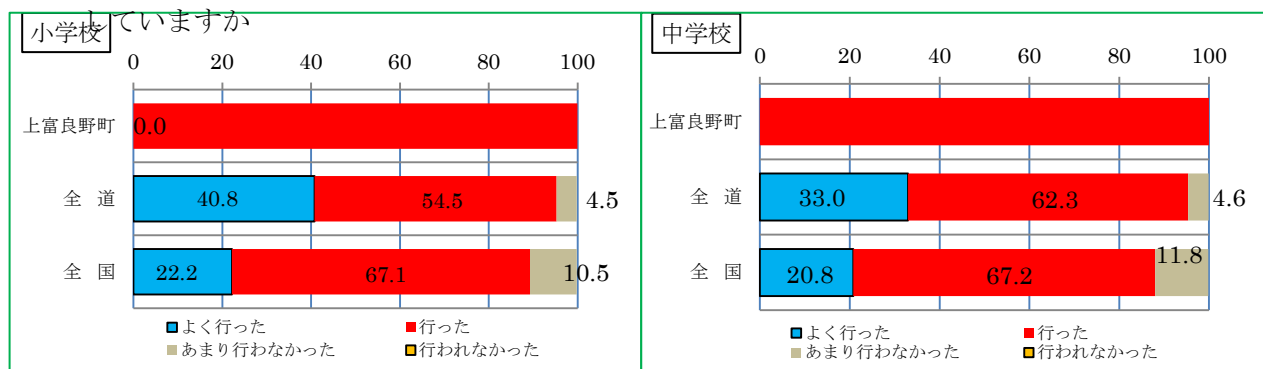
(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
地域行事に参加している	86.2	68.0	73.1	50.6
地域や社会をよくするために何をすべきか考える	47.1	54.5	53.6	39.4
外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい	69.0	68.6	70.7	62.4
日本や上富良野ことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい	77.0	76.1	73.2	59.3
授業以外で日常的に英語を使う機会（話す、手紙、メール、英語のテレビやホームページ、英会話教室）			35.3	33.8
将来、積極的に英語を使うような生活や職業に就きたい			40.2	41.8

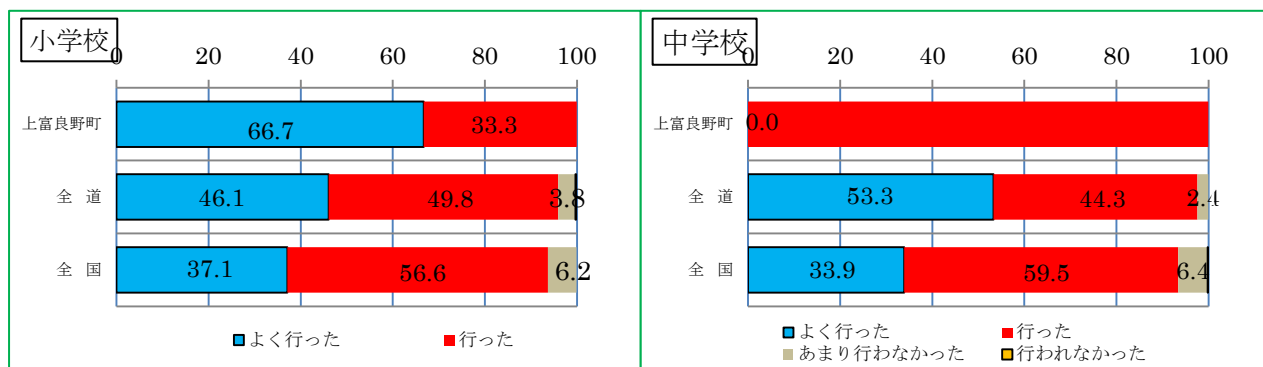
「地域行事への参加」が高く、小・中学生とも、地域や社会に対する関心が高い。
 「外国や外国人に対する関心」が、小・中学生とも高い。
 「英語を使う機会」や「英語を使う生活・職業」について、中学生ではほぼ全国平均となっている。

3 学校質問紙の傾向

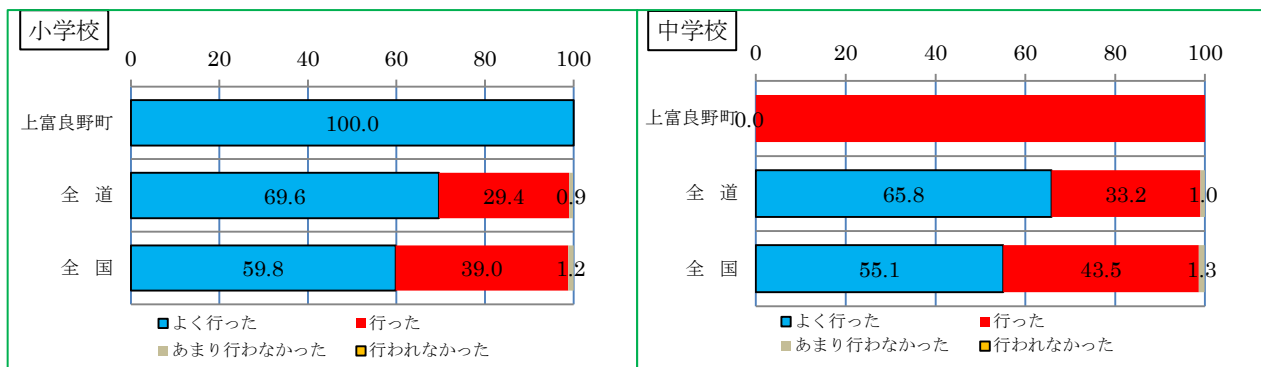
(1) 児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善するPDCAサイクルを確立



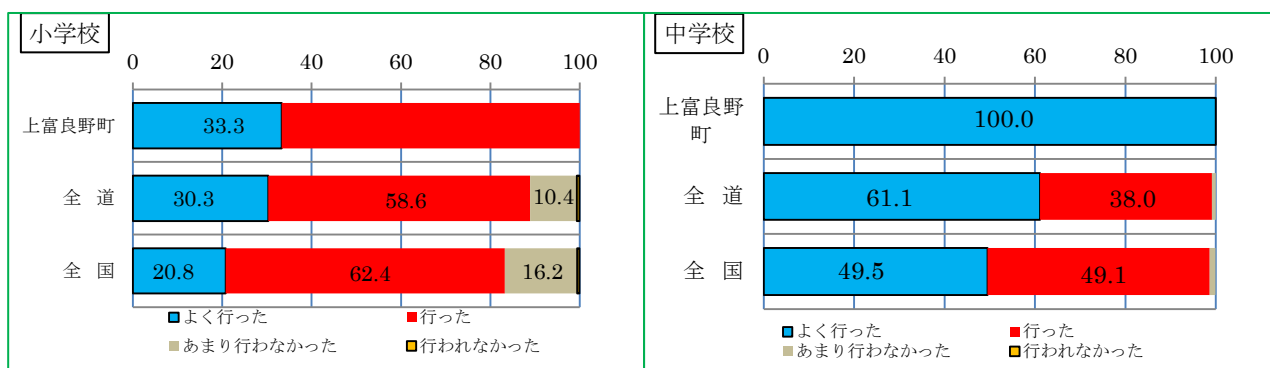
(2) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善・工夫をしましたか



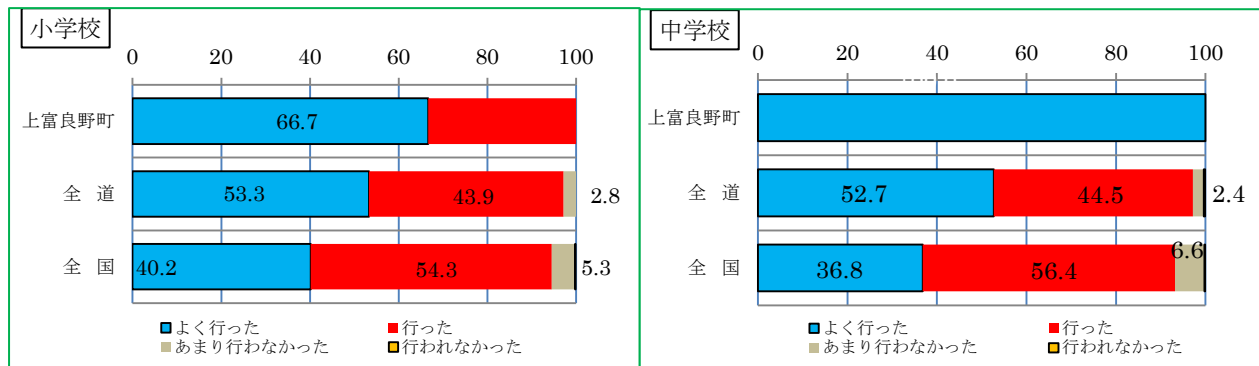
(3) 学校生活の中でよい点や可能性を見つけ評価する(褒める)取組をどの程度行いましたか



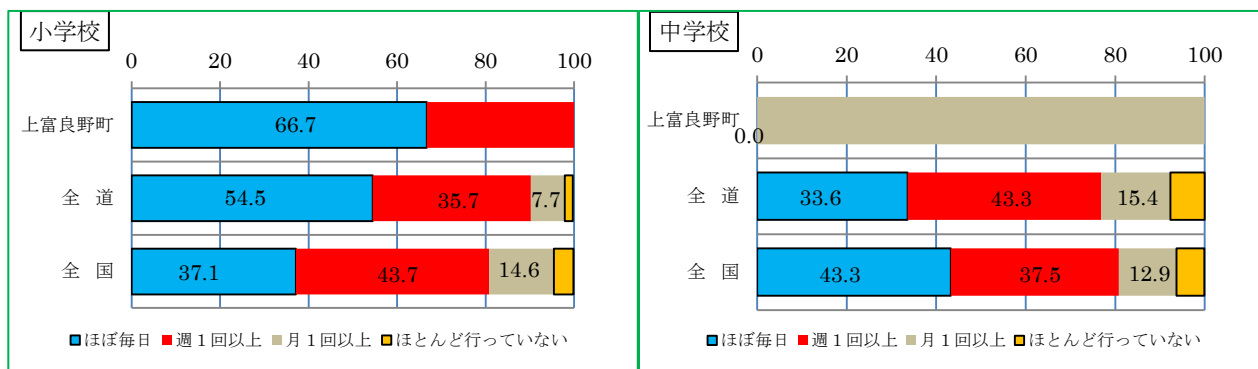
(4) 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



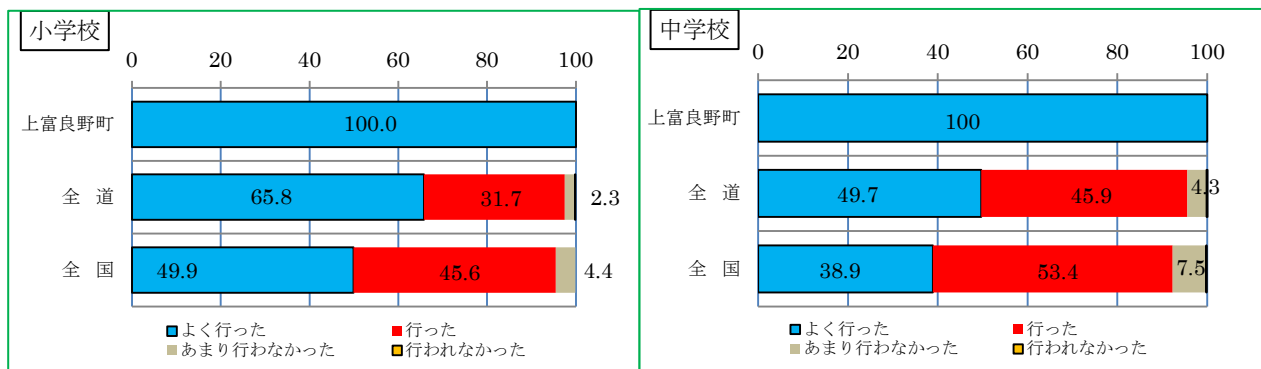
(5) 学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか。



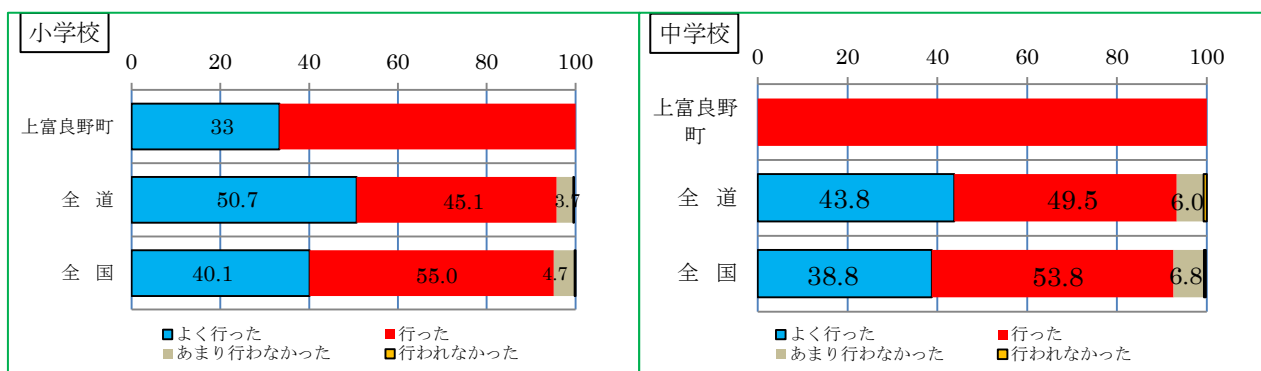
(6) 電子黒板等、ICTを活用する授業をどの程度行いましたか



(7) 児童生徒に家庭での学習方等について具体例を挙げて教えていますか



(8) 教員は、特別支援教育について理解し、特性に応じた指導の工夫（板書、説明、教材の工夫等）を行っていますか



小中学校では、育成する「資質・能力」を明らかにしながら、教育課程の編成・実施・評価・改善に努めている。

小学校では、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善に取り組み、主体的学びを進めている。

小学校では、よさや可能性を評価する、共感的な指導を進めている。

小・中学校では、仕事や夢について考えさせるなど、キャリア教育を進めている。

小・中学校では、自分の考えを述べたり他所の意見を聞いて判断したりする話し合い活動に努め、対話的な学びを進めている。

小学校では、電子黒板等を毎日授業の中で使うなど、ICTの活用を進めている。

小・中学校では、家庭学習の仕方を児童生徒に指導し、児童生徒の家庭学習定着を進めている。

小・中学校では、特別支援教育への理解し特性に応じた指導の工夫に努めている。

Ⅲ 現状と今後の取組

- 1 小学校は、国語・算数とも平均正答率が全国平均を下回った。国語は、「関心・意欲・態度」「書くこと」「目的に応じて文をまとめる」が課題になっている。算数は、「量と測定」「数量関係」「図形」が課題となっている。

中学校では、国語・英語とも平均正答率が全国平均正答率をやや下回った。国語は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、数学では「資料の活用」の定着が図られている。英語は全国平均となっている。

小学校では上位グループが少なく、学習内容の定着不足がみられる。中学校では中位グループが多く、学習内容の確実な定着が進んでいる。

「確かな学力育成プラン」を見直し、授業内容の精選、個別や全体などの指導方法の工夫改善など、児童生徒の実態に即した様々な取り組みや小中学校の連携を着実に実施していく必要がある。

- 2 基本的な生活習慣が身についている児童生徒が多い。平日の家庭での学習時間が1時間以内の児童生徒が、小学校では35.6%（全国34%）、中学校では39.1%（30%）と、中学校で学習時間が少なくなっている。読書を全くしない児童生徒は、小20%前後、中30%前後（全国平均と同様）と大変多くなっている。

「家庭学習のすすめ」（教育委員会）や「家庭学習の手引き」（各学校）の効果的な活用による家庭学習の確実な定着や、教科・総合的な学習の時間・学校行事と関連させた学校図書館・町立図書館利用の促進を図る工夫の必要がある。

- 3 「自己肯定感・有用感」「将来に対する希望」「規範意識」などが高い児童生徒が多い。学習については、小学校で「好き」の回答が多くなっている。

よさや可能性を大切にする共感的指導や「学ぶことが楽しい」と児童生徒が実感できる体験的な活動をより工夫していく必要がある。

中学校ではクラブに所属している生徒が多く、部活動について「部活動の在り方に関する方針」に沿った活動を推進していく必要がある。

- 4 小・中学校とも地域行事への参加が多く、家庭や学校以外へ自ら進んで関わっている。外国や外国人への関心も高い。

地域の教育資源を活用した体験的な教育活動の充実や、保護者・住民が学校の教育活動へ参加しやすい学校運営の体制、国際理解教育やALTとのTT指導を工夫していく必要がある。